

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	玉川大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	タマガワダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	「インターンシップA」および「インターンシップB」
	学部・研究科等名	観光学部
	担当教職員名・役職	根木良友・准教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	115	
受入企業等数	31	
受入企業等名	Batman's Hill on Collins,Bayview Eden,Bayview on the Park,Bunyip Tours,Crowne Plaza Melbourne,Fabulous Catering,H.I.S. Australia Melbourne Branch,Heathgrove Study Centre,Hudson's Coffee,InterContinental The Rialto,Japan Package Tours,JTB Melbourne,Langham Melbourne,LCI Education,Levelup English,Melbourne Marriot Hotel,Melbourne Star Observation Wheel,Mr.John's Tours,National Trust Victoria,nest oceania Pty Ltd,OZ House,Radisson on Flagstaff Gardens Melbourne,YDGES Melbourne,snow travel expo,Society of StVincent De Paul Venies OP Shop Assistant,Supernormal,Swanston Hotel Grand Mercure,Tolerno Hotel,TRYBER PTY LTD,Whiteroom Tours,Xavier College	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 11.その他	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	学生のインターンシップ配属先は、イベント業、宿泊業、旅行業、外食業、小売業、非営利団体(地方公共団体を含む)の6つの観光関連業種等から選定し、学生の専攻である観光の学びとの高い接続効果をもたらした。	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2企業で4週間の研修を実施。初回は語学力を考慮した職場での異文化適応力の習得、2回目は現地コンベンションセンターでの山形市との連携によるPBL型イベント研修を含む、総仕上げの就業体験を実施。イベント研修では、主催団体であるSNOW TRAVEL EXPOと蔵王温泉観光協会から担当学生に対して感謝状が授与された。なお、配属先は学生の語学力と3つの履修モデルに対する学生の希望を基に決定した。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している 9.その他
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	学生の専攻に直結する観光関連業種でのインターンシップを実施した。異文化適応力や職業選択力を高めるために、異なる2つの業種でのインターンシップを実施した。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次秋学期および3年次春学期
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	必修科目である「インターンシップA」および「インターンシップB」に対して、それぞれ2単位、計4単位を付与した。計4単位を付与するために、学生には計160時間の就業時間を課した。評価についてはS・A・B・C・Fの5段階評価とした。	

要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	1年次6月・1月・2年次5月の留学ガイダンス、2年次春学期のコミュニケーションアワー、および留学後の2年次11月・3年次4月のインターンシップガイダンスにおいて、段階的な事前指導を適宜実施した。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	留学帰国後の授業にイベント研修主催企業の会長を招聘し、スキーリゾートの地域振興に関する講義を実施。また、ゼミでも山形市と連携を図り、海外研修での経験等に基づき山形市の観光振興に関する調査研究を実施。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	教員が代表を務める本学との合同出資会社社員が研修期間中に全ての研修先企業を訪問し、企業ヒアリングと学生面談を実施。また、Blackboardを介して研修中の様子をモニタリングし、適宜指導を実施。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	留学前に、インターンシップを終了した先輩学生による報告会を実施した。また、留学後のインターンシップ直前の時期に、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、海外企業で必要とされる履歴書や志望動機等の適切な英文での作成指導、PBL型インターンシップの事前授業などを実施した。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修後に学生より研修日誌およびインターンシップ報告書の提出を義務付けた。毎日記載する研修日誌では、研修業務内容と責任範囲の概要、および取り組みに対する所感を記述させた。報告書においては、業務と責任範囲の詳細、新たな経験、修得したスキルや知識、活用したスキルや知識、反省点および所感を記載させた。併せて、異文化適応力と社会人基礎力において学生が事前に設定した取り組み目標に対する成果も記載させた。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	モニタリング項目は、グローバル人材に求められるジェネリックスキル・異文化適応力・職場における語学の実践力、および業種や業務に対する関心事などに設定した。帰国後の就職活動において、それらモニタリング項目を基に学生に対する指導を行った。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	留学帰国後の3年次秋学期に実施する観光業界人14名によるリレー方式の講義を行う授業でアンケートを通して観光学部生とその他学部生との比較を行い、インターンシップ参加率や就職希望業種の調査を実施。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	専攻や専門に関わらず社会で求められるジェネリックスキルを測定するPROGテストを学生に受験させ、リテラシー(問題解決力・言語処理能力・非言語処理能力)とコンピテンシー(対人基礎力・対自己基礎力・対課題基礎力)の2つの能力を測定し、インターンシップの成果および就職活動に向けてのさらなる課題を学生に客観的に把握させる取り組みを行った。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	計4週間(20日間)
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	平成29年度は1年間の海外留学中に、2企業で留学先3大学の在籍者全員が実働10日間×2回、計20日間のインターンシップを実施。配属先は学生の語学力、および「観光ビジネスの発展」、「観光を通じての地域の活性化」、「観光を通じた国際交流の進展」の3つの履修モデルにおける学生の希望を基に決定。初回研修は異文化適応力の習得、2回目はPBL型イベント研修を含む総仕上げの就業体験を実施。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	留学帰国後の授業にイベント研修主催企業の会長を招聘し、スキーリゾートの地域振興に関する講義を実施。併せて、ゼミでは山形市観光戦略課長による山形市の観光の現状と観光政策についての講演を実施。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	平成29年度は、PBL型のイベントインターンシップの効果を高めるために、上述のとおり留学帰国後にスキーリゾートの地域振興に関する講義を実施した。今後は学修効果をより高めるために、留学前の段階で地域振興に関するフィールドワーク形式の授業を導入する予定である。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	玉川大学
	担当部署名	観光学部
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	根木良友
	電話番号	042-739-8302
	メールアドレス	negi@tsm.tamagawa.ac.jp